

第 3 回 館山市議会定例会会議録
(第 5 号)

1 昭和61年9月26日(金曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 26名

1 番 神田 守隆
3 番 山中金治郎
5 番 横溝 功
7 番 榎本 春光
9 番 福原 勤
11 番 飯田 義男
13 番 石井 昌治
15 番 渡辺 昭夫
17 番 近藤 好雄
20 番 石井 武敏
22 番 林 豊
24 番 流山源次郎
26 番 石井 正

2 番 田沢 勝信
4 番 小宮 利夫
6 番 生稻 陞
8 番 日下 君敏
10 番 川名 正二
12 番 石井 謀
14 番 伊藤幸太郎
16 番 松下 正己
19 番 黒川 平治
21 番 吉田勇治郎
23 番 伊賀 多朗
25 番 五十嵐 昇
27 番 安西 益男

1 欠席議員 なし

1 出席説明員

市長 半澤 良一
収入役 山田 俊康
総務 部長 飯野 芳郎
経済 部長 安西 良一
教育委員会 委員長 高橋 弘之
選挙管理委員会 委員長 加藤 利
監査 委員 鈴木 重司
農業委員会 会長 斎藤 明

助 役 小倉 澄男
市長公室長 斉藤 武男
民生 部長 渡辺 弘
水道 課長 石井 敏夫
教育委員会 委員長 福原 修
教育委員会 選挙管理委員会 佐藤 輝雄
事務局書記長 橋本 巖利
監査事務局 池田 六郎
農業委員会 事務局 長

1 出席事務局職員

第1号に同じ

1 議事日程(第5号)

昭和61年9月26日午前10時開議

議案第53号 議会の議決に付すべき契約及び財産の取得

- | | | | |
|-----------|---|------------------------------|---------------------------------------|
| 日程第 1 | { | | 又は処分に関する条例の一部を改正する条例の制定について |
| 議案第 5 4 号 | | 字の区域及び名称の変更について | |
| 議案第 5 8 号 | | 昭和 6 1 年度館山市一般会計補正予算 (第 5 号) | |
| 日程第 2 | | 議案第 5 5 号 | 館山市民センター条例の一部を改正する条例の制定について |
| 日程第 3 | { | 議案第 5 6 号 | 館山市水道事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例の制定について |
| | | 議案第 5 7 号 | 館山市国民宿舎事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例の制定について |
| 日程第 4 | | 請願第 4 号 | 非課税貯蓄制度存続に関する請願書 |
| 日程第 5 | { | 認定第 1 号 | 昭和 6 0 年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定について |
| | | 認定第 2 号 | 昭和 6 0 年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について |
| | | 認定第 3 号 | 昭和 6 0 年度館山市老人保健特別会計歳入歳出決算の認定について |
| | | 認定第 4 号 | 昭和 6 0 年度館山市と畜場特別会計歳入歳出決算の認定について |
| | | 認定第 5 号 | 昭和 6 0 年度館山市ユースホステル特別会計歳入歳出決算の認定について |
| | | 認定第 6 号 | 昭和 6 0 年度館山市学童災害共済事業特別会計歳入歳出決算の認定について |
| | | 認定第 7 号 | 昭和 6 0 年度館山市水道事業特別会計収支決算の認定について |
| | | 認定第 8 号 | 昭和 6 0 年度館山市国民宿舎事業特別会計収支決算の認定について |

開 議 午前 1 0 時 0 5 分

○議長 (伊賀多朗君) 本日の出席議員数 2 6 名、これより第 3 回市議

会定例会第5日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

○議長（伊賀多朗君） 日程第1、議案第53号、議案第54号及び議案第58号の議案を一括して議題といたします。

総務委員会委員長報告

○議長（伊賀多朗君） ただいま議題となりました各議案は、ともに9月17日の本会議において総務委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する総務委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

総務委員会委員長山中金治郎君。御登壇願います。

（総務委員会委員長山中金治郎君登壇）

○総務委員会委員長（山中金治郎君） ただいま議題となりました議案第53号乃至第54号及び第58号に係る総務委員会におきます審査の経過及び結果について御報告申し上げます。

去る17日の本会議におきまして付託を受けました各議案審査のため19日午前10時より総務委員会を招集し、付託の趣旨を対しまして慎重な審査をいたしました。

もとより、各議案につきましてはすでに本会議におきまして一般議案、議案関連質疑等を通じ活発な論議が展開されましたが、本委員会といたしましてはこのような背景のもとで執行部の出席を求め、説明を聴取しつつ審査を進めました。

以下、委員会におきます質疑応答を整理いたし、その概要を御報告申し上げます。

まず、議案第53号議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例の一部を改正する条例の制定については、今後実際に不動産の信託の受益権の買い入れ、もしくは売り払いはあり得るかどうかとの質疑に対し、執行部より信託を実際に行う場合には事業採算がとれるかどうか、またそのための有効未利用地があるかどうか問題になるが、

現在の館山市においてはそういうものはないと考える旨の回答がありました。

議案第54号字の区域及び名称の変更については、ほ場整備事業が完了次第速やかに字の区域及び名称の変更はできないものかとの質疑に対し、地権者が死亡していたり、また遠方にいたりして短期間に処理できるという形がとられていないが、できるだけ早く処理できるように努力している旨の回答がありました。

議案第58号昭和61年度館山市一般会計補正予算第5号については、コミュニティセンター費中、高圧受電盤改修工事請負費について、落雷による事故の例が過去にあったか、また予測できなかったのかとの質疑に対し、落雷による事故については過去西岬小学校及び市営プールの管理棟で起こっているがそれぞれ改築改修されている、また建物から離れた高圧電柱に落雷したもので予測はできなかったとの回答がなされました。

また、道路橋梁費中、かけかえ工事についてはいつごろ行うのかとの質疑に対し、これは小塚橋のかけかえ工事であり、10月に発注を予定している旨の回答がありました。

次に、港湾費中、館山棧橋先端破損部分撤去工事について入札で行うのかとの質疑に対し、執行部より、県において館山湾での工事を発注するのでその際に県が発注した業者と随意契約をしたい、着工は10月下旬から11月上旬を予定している旨の回答がなされました。

以上、委員会におきます審査の概要を申し上げましたが、本委員会は付託を受けました議案第53号乃至議案第54号及び議案第58号の各議案とも全員一致をもって原案どおり可決するものと決しました。

以上、総務委員会における審査の経過並びに結果について御報告申し上げます。何とぞ満場の御賛同を賜りますようお願いいたしまして委員長報告といたします。

○議長（伊賀多朗君） 以上で委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

これより討論を行います。

通告はありませんでした。討論ありませんか。——討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

○議長（伊賀多朗君） これより採決いたします。

採決は分割して行います。

まず、議案第53号議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例の一部を改正する条例の制定について起立により採決いたします。

本案についての委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（伊賀多朗君） 起立多数であります。よって、本案は原案どおり可決されました。

次いで、議案第54号及び議案第58号について一括して採決いたします。

議案第54号及び議案第58号についての委員長の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（伊賀多朗君） 御異議なしと認めます。よって、議案第54号及び議案第58号の各議案はいずれも原案どおり可決されました。

議案の上程

○議長（伊賀多朗君） 日程第2、議案第55号館山市民センター条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

文教民生委員会委員長報告

○議長（伊賀多朗君） ただいま議題となりました議案第55号は9月17日の本会議において文教民生委員会に付託されたものであります。

よって、これより本議案に対する文教民生委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

文教民生委員会委員長松下正己君。御登壇願います。

(文教民生委員会委員長松下正己君登壇)

○文教民生委員会委員長(松下正己君) 去る17日開会の本会議におきまして本文教民生委員会に付託されました一般議案1件について、19日午後2時委員会を招集し、全委員出席のもとに慎重に内容審査を行いました。

以下、委員会における審査の経過並びに結果について御報告申し上げます。

議案第55号館山市民センター条例の一部を改正する条例の制定について全員一致をもって原案どおり可決すべきものと決定しました。

次に、審査の過程における主なる事項についてを申し上げます。

まず、今回改善される照明設備の内容と理由についての説明を求めましたところ、サスペンションライトについては舞台天井より吊るしてあるライトのことで、スポットライトは2階後方席からのセンタースポットライトで、特にサスペンションライトについては従前1列であったが今回2列に増設をしたので第1、第2とし料金を設定した。なお、理由については老朽化したため改修を行い、あわせて機能の改善を図ったとの説明がありました。

次に、市民センターホールの使用回数について聞きましたところ、60年度は移動席と固定席の使用数は393回であったと説明がなされました。

そこで、市民センター建設後の改修について今までどのようになされておるか説明を求めましたところ、55年度に屋根、56年度音響効果、57年度外装、58年度内装、さらに59年度天窓、60年度漏水とそれぞれ部分的な補修を行っており、今後ホールのカーペット、舞台幕、ボイラー等の補修とホールの屋根の塗装を予定しておるとの説明がありました。

次に、市民センターは構造的に危険性はないのか、あわせて耐用年数についてを聞きいただきました。危険性については耐震診断も行っており、

構造上窓が多いという問題点はあるが、特に危険であるという指摘は受けていない。耐用年数については税法上50年ということであるが、屋根に重量鉄骨の部分があり、若干差し引かれると思うと説明がありました。

以上で本委員会における審査の概要について申し上げましたが、満場の皆さまの御賛同を賜りますようお願い申し上げ、文教民生委員会委員長報告といたします。

○議長（伊賀多朗君） 以上で委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

これより討論を行います。

通告はありませんでした。討論ありませんか。——討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

○議長（伊賀多朗君） これより採決いたします。

本案についての委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（伊賀多朗君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決されました。

議案の上程

○議長（伊賀多朗君） 日程第3、議案第56号及び議案第57号を一括して議題といたします。

建設経済委員会委員長報告

○議長（伊賀多朗君） ただいま議題となりました各議案は、ともに9月17日の本会議において建設経済委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する建設経済委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

建設経済委員会委員長小宮利夫君。御登壇願います。

(建設経済委員会委員長小宮利夫君登壇)

◎建設経済委員会委員長(小宮利夫君) 去る9月17日開会の本会議におきまして建設経済委員会に付託されました議案第56号及び議案第57号の審査結果について申し上げます。

両議案ともに公有地信託制度導入に伴う法令の改正に基づき条例を改正しようとするものでありまして、9月20日招集の委員会におきまして審査いたしました結果、全員一致をもって原案どおり可決すべきものと決しました。

以上、建設経済委員会委員長報告を終わります。

◎議長(伊賀多朗君) 以上で委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

これより討論を行います。

通告はありませんでした。討論ありませんか。——討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長(伊賀多朗君) これより採決いたします。

採決は一括して起立により行います。

議案第56号及び議案第57号についての委員長の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

◎議長(伊賀多朗君) 起立多数であります。よって、議案第56号及び議案第57号の各議案はいずれも原案どおり可決されました。

請願書の上程

◎議長(伊賀多朗君) 日程第4、請願第4号非課税貯蓄制度存続に関する請願書を議題といたします。

総務委員会委員長報告

○議長（伊賀多朗君） ただいま議題となりました請願第4号は、9月17日の本会議において総務委員会に付託されたものであります。

よって、これより本請願に対する総務委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

総務委員会委員長山中金治郎君。御登壇願います。

（総務委員会委員長山中金治郎君登壇）

○総務委員会委員長（山中金治郎君） 請願第4号非課税貯蓄制度存続に関する請願書の審査結果について申し上げます。

本請願書は、9月19日招集の総務委員会において審査の結果、全員一致をもって採択すべきものと決しました。

以上、御報告申し上げます。

○議長（伊賀多朗君） 以上で委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

これより討論を行います。

通告はありませんでした。討論ありませんか。——討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

○議長（伊賀多朗君） これより採決いたします。

本請願書についての委員長の報告は採択であります。

本請願書を委員長の報告どおり採択と決しますことに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（伊賀多朗君） 御異議なしと認めます。よって、本請願は採択と決しました。

日程の追加

○議長（伊賀多朗君） お諮りいたします。

ただいま採択されました請願書に附帯して発議案第3号非課税貯蓄制度存続に関する意見書についてが提出されました。

この際、本案を日程に追加し、議題といたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(伊賀多朗君) 御異議なしと認めます。よって、本案を日程に追加し、議題とすることに決しました。

議案の上程

○議長(伊賀多朗君) 発議案第3号非課税貯蓄制度存続に関する意見書についてを議題といたします。

議案を配付いたさせます。

(議案配付)

○議長(伊賀多朗君) 議案の配付漏れはありませんか。——配付漏れなしと認めます。

議案の朗読を願います。

(書記朗読)

○議長(伊賀多朗君) 朗読は終わりました。

議案の内容説明

○議長(伊賀多朗君) 提出者の説明を求めます。

(3番議員山中金治郎君登壇)

○3番(山中金治郎君) 発議案第3号非課税貯蓄制度存続に関する意見書について提案理由を御説明申し上げます。

非課税貯蓄制度は、国民の間において定着しており、これが廃止されることになれば国民生活に大きな影響の出る問題であります。

すでに、昭和59年当議会において存続すべきであるとする趣旨の意見書を関係機関に提出し、現在まで制度は存続されておるところであります。さらに昨今見直しの機運が高まってきております。

したがって、ただいま採択されました請願の趣旨を体しまして、本制度の存続を関係機関に要望いたしたく、6名の賛成者を得まして本

案を提出いたした次第であります。

満場の御賛同を賜りますようお願いをいたしまして、提案理由の説明といたします。

○議長（伊賀多朗君） 説明は終わりました。

これより質疑を行います。

御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

○議長（伊賀多朗君） お諮りいたします。

本案については委員会付託並びに討論省略、直ちに採決いたしますことに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（伊賀多朗君） 御異議なしと認めます。よって、決しました。

採 決

○議長（伊賀多朗君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（伊賀多朗君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決されました。

議案の上程

○議長（伊賀多朗君） 日程第5、認定第1号乃至認定第8号昭和60年度館山市一般会計及び特別会計決算を一括して議題といたします。

決算審査特別委員会委員長報告

○議長（伊賀多朗君） ただいま議題となりました各会計決算は、ともに去る9月18日の本会議において特別委員会を設置し、付託されたものであります。

よって、これより本決算に対する決算審査特別委員会における審査の

経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

決算審査特別委員会委員長近藤好雄君。御登壇願います。

(決算審査特別委員会委員長近藤好雄君登壇)

○決算審査特別委員会委員長(近藤好雄君) 認定第1号乃至認定第8号昭和60年度館山市一般会計及び特別会計決算に係る決算審査特別委員会における審査の経過並びに結果につきまして御報告申し上げます。

去る18日開会の本会議におきまして本委員会に付託されました各決算につきまして、22日委員会を招集し、慎重に審査を行いました。

審査にあたっては、提出された説明資料に基づいて市当局の考えをただし、あるいは処理状況の報告を求め、さらに今後改善すべき点、検討を要する事項を指摘、要望しつつ審査を行った次第であります。

以下、委員会におきます質疑応答等整理いたしまして、論議されました主なる点につきまして御報告申し上げます。

まず、一般会計歳出であります。

第2款総務費、文書広報費中、印刷製本費において956万6000余円の支出がされていますが、この内容について説明を求めましたところ、毎月発行の市広報「たてやま」の印刷製本費で、月平均13ページ、1万8600部に対するものであるとの説明がありました。

さらに、業者については入札により決定しているのかとの質問に対し、印刷の技術的な問題、また期日が限られていること等勘案して、3社による見積もり合わせによって決定している旨の説明がありました。

次に、企画費中、総合計画審議会委員報酬において3万1500円の予備費充用がされていますが、予備費を充用した理由についてただしましたところ、60年度は総合計画策定の年度にあたり審議回数がふえたことにより不足を生じたため充用したもので、このような場合、できるだけ流用を考えているが、特にその目内においてその後の予定等から流用が困難であったので予備費充用を行ったとの説明がありました。

次に、同じく企画費中、国鉄内房線複線化促進期成同盟負担金4万円が支出されていますが、この期成同盟について説明を求めましたところ、昭和53年7月に設立され、知事が会長となり、沿線周辺16市町村及び京葉地帯18団体で組織しているもので、内房線の全線複線化を最終

目標としながら、部分複線化等も含めての早期実現、路線、路盤の改良工事による列車のスピード化、輸送力増強対策として通勤、通学時間を中心とした列車の増発、快速運転区間の延長、待ち合わせ時間の改善等を要請し、運動しているものであるとの説明がありました。

さらに、同じく負担金として7万円を支出している京葉地帯経済協議会の事業内容等についても説明を求めましたところ、法人あるいは地方公共団体145団体によって組織され、鉄道、道路問題、都市計画問題、環境保全対策、港湾対策、工業用水対策等について調査、研究を行っているものであるとの説明がありました。

次に、防災対策費中、災害等罹災者見舞金28万円の支出がされていますが、この内訳について説明を求めましたところ、火災関係では、住家の全焼1件で3万円、半焼1件で2万円、非住家の全焼1件で2万円、交通事故関係では死亡2件で6万円、負傷15件で15万円であったとの説明がありました。

なお、金額については57年に設定をしたものであり、今後慎重に検討してみたいとの考えが示されました。

次に、同じく防災対策費中、災害住宅復旧資金貸付金100万円が支出されていますが、この内容については、災害住宅の復旧資金の貸し付けで、施行規則により全焼の場合200万円、半焼の場合100万円を限度に貸し付けるもので、60年6月の台風6号の影響による住宅の屋根の補修に対する貸し付けを行ったとの説明がありました。

さらに、100万円の不用額を生じているが、貸し付けの基準が厳しいのではないかと指摘に対し、災害住宅の復旧資金については、他の貸し付け制度が優先され、なお不足を生じる場合に補完的に貸し付けることになっている。また、罹災後6ヵ月以内に申請をしなければならないことになっており、申し込みが少ないのではないかと考えられるので、今後は申請期間の延長について検討してみたいとの説明がありましたが、なお、制度の目的を生かすためにPR等に努められるよう要望いたしました。

次に、交通安全対策費中、交通指導員報酬334万8000円の支出がされていますが、指導員の活動状況等について説明を求めましたとこ

ろ、現在、36名委嘱し、毎日の登校指導とあわせ、交通安全施設の点検を月2回、さらに市主催の諸行事の際の出動、夏季の海岸線の主な交差点での街頭指導等を行っており、60年度延べ744人に対する報酬であったとの説明がありました。

次に、電子計算機費中、ワードプロセッサ、パーソナルコンピュータ等の借上料が支出されておりますが、借り上げの状況について説明を求めましたところ、ワードプロセッサについては3年リース、パーソナルコンピュータについては5年リースで、その後それぞれの借上料は10分の1となる旨の説明がありました。

なお、電子計算機による事務改革は積極的に行うべきであるが、急速な進歩がされるものだけに、借り上げにあたっては、性能等についても十分検討されるよう要望いたしました。

次に、第3款民生費であります。

老人福祉総務費中、老人クラブ補助金703万4000円が支出されておりますが、クラブの構成員数にかなりの差があるにもかかわらず一律に補助金が支出されているのは問題があるのではないかと指摘を対しまして、県の補助金がおおむね50人程度を単位に、人数割でなく交付されており、市としても同額の補助をしている関係から一律に支給しているが、今後、市としては県との連動を考えているので、県とも相談するとの考えが示されました。

次に、老人福祉医療費中、老人保健特別会計への繰出金において5449万6000余円の多額の不用額を生じていることについて説明を求めましたところ、60年度の老人医療について1月下旬に決算見込みを立てたが、その時点で残り3ヵ月分について過去9ヵ月の平均値ではなく予算の不足を避けるために最高の月の額をもって見込み、それに伴う市の負担分と支払基金及び国、県からの負担金の翌年度精算分の一時補てんをするために6300万円を3月に補正したが、結果的に医療費が見込みを下回ったことにより不用額を生じたとの説明がありました。

次に、児童福祉費中、児童措置費の児童福祉法第51条による措置委託料については、私立の保育所に通う児童に対する措置委託料で延べ人数3542人、月平均295人分であるとの説明がありました。

なお、保育所に通う児童数の推移については、公、私立あわせて、59年度月平均620人、60年度月平均597人、61年9月1日現在582人と減少の傾向にあるとの説明がありました。

次に、第4款衛生費であります。

と畜場についてはご承知のとおり、すでに60年5月からその運営を民間で行っており、現在安房と畜場となっていますが、その後の状況について説明を求めましたところ、60年度、牛、豚、その他で2647頭処理しており、決算状況については、収入が1077万余円、支出が1039万余円となっており黒字であったとの報告を受けている旨説明がありました。

次に、正木のごみ処理場跡地の利用について質問しましたところ、

現在、127号バイパスにかかる企業のうち3社から買い受けたい旨の要請があるが、具体的には煮詰めておらず、バイパスとからめて利用については慎重に検討したいとの考えが示されました。

次に、第6款農林水産業費であります。

農地費中、農道整備事業委託料が支出されておりますが、農道舗装に対する考え方と309万円の不用額を生じた理由について説明を求めましたところ、本来、農道については地元の方々によって整備をしていただくのがたてまえであるが、将来生活道として市道に編入されるような農道については市が千葉県農業開発公社に委託して舗装を行っている。なお、不用額については、入札残と、ほ場整備の中で残土運搬用の道路について舗装することもあり、不用額を生じたものであるとの説明がありました。

次に、林業振興費中、松くい虫に対する防除推進員報償金、防除委託料、特別対策事業補助金等が支出されておりますが、これについては、現段階では特別に松くい虫による影響は出ておらず、成果は上がっているとの説明がありました。

また、水産業振興費中、くるまえび、あわびの種苗放流事業補助金が支出されておりますが、さらに、59年度実施したひらめ養殖パイロット事業が行われなかったことについて、このような事業は継続して実施すべきではないかと指摘しましたところ、船形漁協において築港で10面

の水槽によりひらめの養殖事業を実施している中で特に組合からの要望もなく見送ったが、その後は県の養殖センターから稚魚を得て放流をしているとの説明がありました。

次に、第7款商工費であります。

商工業振興費中、中小企業融資預託金1300万円が支出されていますが、預託額はこれで十分であるかどうかたまたましたところ、60年度は12件、1986万円の融資があり、なお61年度においても同額の預託をしているが、預託額の8倍の融資枠であるので十分であると考えている旨の説明がありました。

次に、観光費中、館山市観光振興事業補助金5500万円が支出されていますが、事業内容について説明を求めましたところ、56年に市町村観光振興事業として指定を受けたスポーツの里事業の最終年度にあたり、西岬のサンフラワーテニスコート19面の建設に係る補助金で、5500万円のうち県から3分の1が交付されている。なお、組合の負担は7931万1000円であったとの説明がありました。

次に、第8款土木費であります。

土木総務費中、住宅建設資金利子補給金441万1000余円が支出されていますが、本制度については、住宅金融公庫または公庫の抽選に漏れ指定金融機関から融資を受けた場合に、5.5%を超えたものについて3%を限度に利子補給するもので、県の補助は2分の1である。なお、現在までの実績については、55年度分12件、56年度分12件、57年度分16件、58年度分17件、59年度分19件、60年度12件、計88件であったとの説明がありました。

次に、道路橋梁総務費中、道路台帳修正等委託料580万円が支出され、なお61年度においても870万円の予算が計上されていますが、毎年支出していかなければならないものか質問しましたところ、道路台帳整備は59年度で完了したが、その後、前年度に改良、舗装等によって道路内容に変更が生じた場合、その分の道路台帳を修正するもので、若干金額は異なるが、毎年支出しなければならないとの説明がありました。

次に、第10款教育費であります。

神余小学校の統合に対する取り組みについてただしましたところ、60年度において、複式学級であること、校舎の老朽化等から統合の方針で進めたが、地区住民から強い反対の意思が表明された。61年度においてはさらに児童数が減少し、4学年において複式学級が行われている状況にあるので、今後も住民の理解を得べく努力していきたいとの答弁がありました。

次に、第12款公債費であります。

一時借入金利子384万2000余円が支出されていますが、これについては延べ51日間、5億円を借り入れ、金利は5.5%であったとの説明がありました。

次に、第13款諸支出金であります。

土地開発基金繰出金、財政調整基金積立金の支出に関連して、それぞれの基金の現在高について説明を求めましたところ、土地開発基金については、保有している土地4596.94平米、現金として9476万2000円、債権として1億4810万3000円、また、財政調整基金については、現金として7億2961万4000円、債権として1億3223万8000円、計8億6185万2000円であるとの説明がありました。

次に、歳入であります。

市税等の収入未済についてはこれまでもたびたび論議されてきているところではありますが、どのように分析をされているか、また徴収に対する考え方について説明を求めましたところ、滞納金額別では、100万円以上52件、50万円から100万円未満が47件、30万円から50万円未満104件、30万円未満が2372件で、100万円以上の滞納額は収入未済総額の46.8%を占めており、業種を見ると宿泊業、不動産業が多く、経営不振、倒産が主な原因となっている。基本的には納期内納付を推進するということで納税組合、前納報償金制度、口座振替制度の活用を進めるが、滞納になった場合には督促状、催告状の発送、さらに臨戸による納税相談等を行っており、特に臨戸徴収について重点的に行っていくとの説明がありました。

次に、都市計画税であります。税率等について説明を求めましたと

ころ、千葉県内 80 市町村のうち 32 市町村において課税をしており、税率については 100 分の 0.3 が 19 団体、0.2 が 10 団体、0.23 が 1 団体、0.25 が 2 団体である旨の答弁がありました。

次に、起債の残高については 94 億 3299 万 3000 円であるとの説明がありました。

以上、決算審査特別委員会におきます審査の概要を御報告申し上げましたが、本決算については、予算議決の趣旨に沿っておおむねその目的を達し得たものと認め、採決の結果、付託を受けました認定第 1 号乃至認定第 8 号の館山市一般会計並びに特別会計決算については全員一致をもっていずれも認定すべきものと決しました。

今後、なお市当局におかれましては、財源の確保と合理的な予算執行により、市民福祉の向上と市勢の進展を図られるよう希望するものであります。

以上、決算審査特別委員会委員長報告を終わります。

◎議長（伊賀多朗君） 以上で委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

討 論

◎議長（伊賀多朗君） これより討論を行います。

通告がありますので、発言を許します。

1 番議員神田守隆君。御登壇願います。

（1 番議員神田守隆君登壇）

◎1 番（神田守隆君） 認定の第 1 号昭和 60 年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定について、認定第 2 号昭和 60 年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について及び認定第 7 号昭和 60 年度館山市水道事業特別会計収支決算の認定について、それぞれ反対の討論を行います。

昭和 60 年度決算の一般会計決算の問題点は、自民党中曽根政治が軍事費調達のために臨調行革の名のもとに地方自治体に対する一方的な負担転嫁を押しつけてきたことであります。すなわち、国庫補助金等の一

律カットが60年度限りということで強行実施されたのであります。その影響は障害者やお年寄りあるいは子供たちへの施策など、民生費の国庫負担の大幅な減少に如実にあらわれています。国庫支出金は対前年度9900万円もの大幅減少となっています。中曽根内閣は60年度1年限りの公約に反し、本年度から3カ年間国庫補助金等のカットを継続実施しようとしております。軍備拡大のために地方財政にその負担をしわ寄せさせるこうしたやり方は許せません。特に、各種福祉施策に対する国庫負担率の引き下げは国の責任放棄といわなければなりません。今こそ地方自治体がその声を大にして1日も早く国庫補助金等のカットをやめさせるよう強く主張しなければならないときであると思います。

市民の今、大変大きな関心事の1つに、海や河川の汚れの問題がございます。60年度はこれへの対応をそのテーマの1つといたしまして環境生活課が発足したのでありますが、その活動は不十分だといわなければなりません。特に、生活雑排水の浄化の基本計画の策定が遅れていることであります。公共下水道や各種の共同処理施設、あるいは戸別処理施設などどのように組み合わせてこの館山市にふさわしい浄化対策を進めていくのか市政の重要課題と位置づけ、早急な基本計画の策定を強く主張いたします。

次に、認定の第2号国保会計の決算の問題であります。

本年度は、国保税を17%大幅な値上げを実施したのでありますが、その原因が医療費の増大ばかりか国庫負担率の切り下げにあり、その穴埋めを国保税の引き上げに求めたところにあることであります。中曽根内閣の医療切り捨て政策に厳しく抗議するものであります。もはや、この値上げの結果、市民の負担の限界を越えたこうした実情が端的に示されたのがこの60年度の国保会計決算であったと思います。60年度現年分の滞納額9800万余円は59年度現年分の滞納額7400万円余に比べまして実に32%の増と激増していることであります。世帯数でも約7軒に1軒が払いきれないという状況でございます。市長はこの事実を直視するべきであります。不納欠損相当額については、加入者の負担とするのではなく、当面一般会計からの繰り入れで補てんすべきことを強く主張し、反対討論といたします。

次に、認定第7号水道事業決算の問題であります。

県の補助基準の改悪に伴い県補助金がなくなり、その分を料金の引き上げで補てんしたのが60年度の水道事業でございました。館山市政の重要課題は水問題でございます。県下で水資源に恵まれない当地は水資源の効率的な活用という点で県下で最も進んだ施策が求められると思います。60年度で改定された料金体系は県営水道などに比べましても大口使用者にとっては割安、逆に一般家庭向きでは割高となっております。当地は県下の中で最も水資源に恵まれていない地域であることを考えるとき、地域の実情に逆行する料金体系であると指摘せざるを得ません。わずか0.4%の大口使用者が全使用水量の20%を占めております。大口使用者の節水をより強く促すよう主張し、反対討論といたします。

○議長（伊賀多朗君） 以上で通告者による討論を終わりますが、通告をしない議員で討論ありませんか。——討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

○議長（伊賀多朗君） これより採決いたします。

採決は分割して行います。

まず、認定第1号一般会計決算について起立により採決いたします。

認定第1号についての委員長の報告は認定すべきものであるとするものであります。

認定第1号を委員長の報告どおり認定することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（伊賀多朗君） 起立多数であります。よって、認定第1号一般会計決算は認定することに決しました。

次いで、認定第2号国民健康保険特別会計決算について起立により採決いたします。

認定第2号についての委員長の報告は認定すべきものであるとするものであります。

認定第2号を委員長の報告どおり認定することに賛成の諸君の起立を

求めます。

(賛成者起立)

○議長(伊賀多朗君) 起立多数であります。よって、認定第2号国民健康保険特別会計決算は認定することに決しました。

次いで、認定第3号乃至認定第6号の各特別会計決算について一括して採決いたします。

認定第3号乃至認定第6号についての委員長の報告は認定すべきであるとするものであります。

認定第3号乃至認定第6号を委員長の報告どおり認定することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(伊賀多朗君) 御異議なしと認めます。よって、認定第3号乃至認定第6号各特別会計決算はいずれも認定することに決しました。

次いで、認定第7号水道事業特別会計決算について起立により採決いたします。

認定第7号についての委員長の報告は認定すべきものであるとするものであります。

認定第7号を委員長の報告どおり認定することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

○議長(伊賀多朗君) 起立多数であります。よって、認定第7号水道事業特別会計決算は認定することに決しました。

次いで、認定第8号国民宿舎事業特別会計決算について採決いたします。

認定第8号についての委員長の報告は認定すべきものであるとするものであります。

認定第8号を委員長の報告どおり認定することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(伊賀多朗君) 御異議なしと認めます。よって、認定第8号国民宿舎事業特別会計決算は認定することに決しました。

閉 会 午前 11 時 02 分

○議長（伊賀多朗君） 以上で本定例会に付議されました議案は議了いたしました。

よって、これにて第 3 回市議会定例会を閉会いたします。

○本日の会議に付した事件

- 1 議案第 53 号乃至議案第 58 号
- 1 請願第 4 号
- 1 日程の追加・発議案第 3 号
- 1 認定第 1 号乃至認定第 8 号

地方自治法第 123 条第 2 項の規定により署名する。

館山市議会議長 伊 賀 多 朗

館山市議会議員 榎 本 春 光

館山市議会議員 林 豊

